

少人数教育の充実に向けた取組

【 相双教育事務所 】

学 校 名	相馬市立中村第二小学校
学年・教科等	第1学年(61名 3学級) 第2学年(71名 3学級) 第6学年(78名 3学級)

少人数教育を取り入れ、学力の向上を図った取組

【基本方針として】

- ◎ 少人数教育のよさを取り入れ、落ち着いた学級・学校生活の中で、一人一人の学力の向上を図る。また、震災後、地域・保護者との連携を強化し、ともに未来を担う子どもたちの育成に努めていくことが大切だととらえた。
 - (1) 少人数学級の実施により、児童一人一人の実態を的確に把握し、個に応じた学習指導を実践する。また、家庭学習などの習慣化を図るきめ細かな手立てを講じ、児童一人一人の思考力を伸ばしていく。
 - (2) 指導形態や指導方法を工夫することにより、児童の学習意欲を高め、めあてに向かって努力する児童を育成する。一人一人の考えと理由付けを明らかにして、友だちの考えと比較検討できるような学習スタイルを実現していく。

取組の内容

【具体的な目標として】

- (1) チャレンジテストで、80点(8割)以上を目指す。(学習に対する姿勢・意欲付け)
- (2) 相馬市学力テストの正答率2ポイントアップを目指す。(基礎基本の確実な定着)
- (3) 家庭との連携を図り、家庭学習の定着度80%以上を目指す。(保護者の意識化)
- (4) 読書活動を推進し、児童一人一人の読書冊数を10%アップを目指す。(落ち着いた生活)
- (5) 生徒指導の充実を図り、個に応じた指導と支援に努める。(いじめ・不登校「0」)

【実際】

- チャレンジテストは、1学期2回実施(年5回実施予定)した。少人数学級とした学年は、3学級の担任が役割分担し、理解力の差に応じた支援や言語能力の低い児童への支援を行っている。
- 学年全体でグループを編成し、「目標別・習熟度別学習」を実施している。
- 少人数学級を生かして、各担任が個々の学習状況を的確に把握するとともに、各家庭からの連絡や相談等にきめ細かく対応しながら、生徒指導や学力向上について家庭との連携に努めている。
- 少人数学級のよさを生かして、担任が一人一人の読書カードをていねいにチェックし、励ましのコメントを記入することで読書活動の充実を図っている。
- 学年を3学級にすることで、生徒指導の機能を生かした教科指導のさらなる充実を図っている。
- 生徒指導面でも、少人数のよさを生かして個に応じたきめ細かな対応をしている。さらに学年の教師間で情報を共有しながら、児童の悩み等の早期発見・早期対応に努めている。



学習ノートの様子

成果と課題

【成果として】

- 少人数のよさを生かして、担任がていねいに児童に関わることで、特に1、2学年では、途中であきらめ、飽きてしまう児童が少なくなり、最後まで学習に取り組む児童が増えてきた。
- 3学級の担任の連携による個別指導を継続することで、「チャレンジテスト」では、学年平均85点以上を達成した。また、学習に取り組む姿勢や意欲の向上が感じられた。
- 学年全体による「目的別・習熟度別学習」により、学習意欲の向上が見られた。また、学習内容の定着が図られたことについて、単元テスト等で確認できた。
- 少人数のよさを生かした教育を推進する中で、家庭との連携を図ることで、生徒指導面や学力向上への保護者の意識が高まりつつある。
- 少人数の学級であるので、担任が学級の児童と関わる時間が確保され、さらに3学級の担任の連携による生徒指導も機能しており、問題の早期発見・早期解決がなされた。このことが地域からの苦情や生徒指導に関わる事案等の減少につながった。

【課題として】

- 児童の潜在能力を引き出し、意欲をもって学習に取り組むよう知的好奇心を高める指導法の工夫と改善に努め、さらに学力向上を図っていききたい。